

5mのナメ滝がわずかに壱をそえているだけの沢である。

小滝2つを越えてゆくと、沢は湿地に入り、その先は伐採地となつてヤブがひどくなる。苦勞してここを抜けるとすぐに道路へ出た。

「ここらあたりの沢で一番苦勞することは？」と聞かれたなら、伐採地のヤブを一番にあげることだろう。そんな感じを強くもつ沢である。  
(記・穴戸幸務)

[タイム] 馬道沢出合(12:40)→終了(13:00)

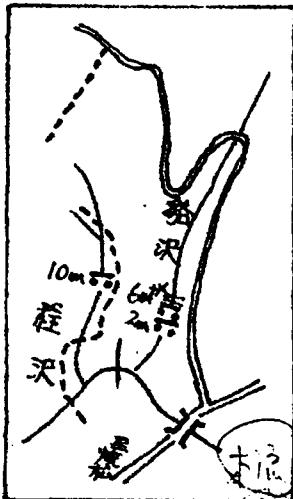
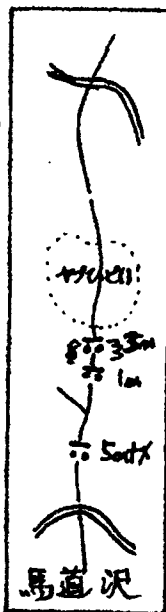
### 驛 沢

1984年6月9日

L

橋から少し下って驛沢に入る。15:00進行開始。

最初からチロチロした流れの中を進む。そしてすぐヤブとなった。小滝と6mのナメ滝を越えると、沢はナメとなり、わきの道路とほぼ同じ高さとなる。水がなくなる所までつめて、道路に上がる。  
(記・



[タイム] 驛沢出合(15:00)→進行終了(15:15)

### 程 沢

1984年6月9日

L5

ヤブの急斜面を下って程沢へ。杉林の中に入ると、水が出てきた。右より支沢が合流した先に10mの滝。左の跡跡を使って下る。すぐに本流。何もない沢だ。

(記・

[タイム] 下降開始(15:35)→終了(15:50)

### 大滝川左俣・右俣

1984年7月7日

入る前から滝はないだろうと考えていたが、予想通り何もない沢だった。

不動沢との出合から右岸の道を歩く。道が沢を横切る所から入流。支沢がいくつか入り、小滝もいくつか越えて進むと、やがて二俣。本流の左俣に入る。

ナメと3mの小滝を越えると、あとは何もない。水線に導かれてとにかくつめて